

## 1-4-24. 奄美大島市道三太郎線周辺における利用適正化に関する調査

宋多情

### Survey on traffic control in nighttime around Santaro Road in Amami-Oshima

SONG Dajeong

鹿児島大学国際島嶼教育研究センター

*International Center for Island Studies, Kagoshima University*

#### 要旨

近年、奄美市住用町の市道三太郎線と周辺道路では、夜間の野生動物観察（特に、アマミノクロウサギ）が人気である。利用者の増加に伴い、野生動物のロードキルやオーバーユースが問題視され、利用適正化に向けた取り組みが始まった。聞き取り調査でガイドと住用町住民の利用方法と考え方の違いが明らかになった。利用ルールの合意のためには互いの理解が必要である。また、利用者の市道三太郎線から他の観察場所への分散をいかにコントロールするかが今後の課題である。

市道三太郎線は、奄美市住用町のタカバチ山系周辺に整備された道路の一つである。支線である市道スタル俣線と市道石原栄間線とともに、夜間の野生動物観察に利用されている。特に、アマミノクロウサギの観察が比較的容易ということで、ナイトツアーガイドによる商業的利用から島民が自家用車で行う観察、レンタカーで訪れる観光客による利用も多い場所である。

アマミノクロウサギの観察を目的とする利用は年々増加しつつある。2019年の奄美大島への入込客数は53万人（入域客数44万人）で、過去最多を記録した。ナイトツアーガイドへの聞き取り調査でも、新型コロナウイルス感染症の影響がまだ少なかった2020年3月まで、約2~3年の間にナイトツアーの利用者が急増したと回答された。格安航空会社の就航や世界自然遺産登録などで注目され、奄美の自然を体験する観光の一つであるナイトツアーの需要は高まっている。

一方、アマミノクロウサギの生息数も、2000年代からのマングース駆除事業によって徐々に回復してきた。しかし、ナイトツアーの人気に伴い、市道三太郎線と周辺道路においても野生動物のロードキルなど、オーバーユースによる野生動物とその生息環境への影響が懸念されている。

環境省と鹿児島県、奄美市は、2019年度から市道三太郎線と周辺道路の夜間利用適正化に向けて動き出した。2020年から2回の実証実験を行い、2021年8月の夜間利用適正化連絡会議にて試行ルールが策定された。そして、2021年10月29日から試行ルールの運用が開始され、現在、市道三太郎線を利用するには予約が必要である。

本研究では、このような行政主導の利用調整がどのように島民たちに受け入れられていくのか、受け入れられないのかをその過程とともに明らかにした。利用適正化に向けた取り組みの中で、特に2回の実証実験に注目し、各回の実証実験終了後に、実証実験に参加したガイド25名のうち13名と奄美市住用町の住民11名（集落の区長、町内のNPO団体の役員、町内の民宿事業者）に聞き取り調査を行った。

聞き取り調査でガイドと住民の利用内容と考え方の違いが明らかになった。ガイドは、ガイド車両以外の車、特に、レンタカーの規制を求めている。また、一部の認定ガイド（奄美群島認定エコツアーガイド）は、金作原国有林と同様に認定ガイドの同行をルールに定める方が、適正な利用につながる。一方、住用町住民は、予約をすれば誰でも利用できるのが望ましいとする。利用時期と時間については、ガイドは、市道三太郎線を年中利用し、2時間程度のツアーで野生動物全般を客に観察させている。住用町住民は、連休や夏休みなどで家族や知人が島外から来た時にアマミノクロウサギを見せるために短時間の利用をしている。利用方法の違いから、車が連なった時に問題が生じていた。ガイドはロードキルの恐れや料金を払ったツアー客に多くの観察機会を与えたいので、一定の観察ができるまで後車を追い抜かせたくないと思っている。住用町住民は、車が連なると後ろで走行する車は観察することが難しいこと、観察が終わって戻りたい時にガイドが先に行かせてくれないことに不満を持っていた。利用ルールの合意のためには、互いの状況や考え方への理解が必要である。

第2回実証実験後に行った聞き取り調査では、他の観察場所の利用を検討する様子が見られた。利用したい時間帯に予約できない場合、利用ルールに異論がある場合に市道三太郎線から他の観察場所へ移動する分散が生じる可能性がある。市道三太郎線は、中心市街地からアクセスが容易であり、道路の幅が広く観察に安全な環境であること、アマミノクロウサギの遭遇率も比較的に高いため、今後も夜間の野生動物観察に継続的に利用されると思われる。しかし、アマミノクロウサギの個体数と生息地がさらに回復すると、今より多くの場所で観察が容易になり、新しいコースを開発するナイトツアーガイドも増えると思われる。ルールを守りたくないという理由で他の観察場所を利用することは、市道三太郎線で起きている問題が場所を変えて生じることを意味する。他の道路を利用する場合でも、定められた観察ルールを適応させる仕組み作りが必要である。

### 参考資料

鹿児島県ホームページ—観光統計

<http://www.pref.kagoshima.jp/aq01/chiiki/oshima/chiiki/zeniki/oshirase/kankoutoukei.html>（最終閲覧日：2021年12月23日）